

科目名		経済学Ⅱ EconomicsⅡ						
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数	
第4学年	経営情報学科	学修	1単位	必修	講義	後期 100分/週	45時間	
担当教員		【非常勤】馬田 哲次 (【副担当】松野 成悟)						
学習到達目標								
科目の到達目標レベル	本講義では、マクロ経済学について取り扱う。よって次の項目を到達目標レベルとする。							
	(1) 国民経済計算、GDPなどの概念を理解でき、財市場での均衡国民所得が導き出せる (2) 財市場、貨幣市場の同時的均衡条件を理解でき財政政策、金融政策の効果について説明できる (3) 財、貨幣、労働市場の同時的均衡条件について理解でき、物価水準がどのように決まるか理解できる (4) 開放経済下での国民所得、国際収支について理解できる							
学習・教育目標	(C)①		JABEE基準1(2)		(e)			
関連科目、教科書および補助教材								
関連科目	経済学Ⅰ							
教科書	「入門経済学[改訂版]」 飯田幸裕・岩田幸訓著 (創生社)							
補助教材等								
達成度評価(%)								
(1) 国民経済計算の理解、財市場均衡の導出		中間試験で評価する					45	
(2) IS-LM分析についての理解		主として期末試験で評価する(進度によって中間試験で一部評価する)					45	
(3) AD-AS分析についての理解		期末試験で評価する						
(4) 開放経済における国際収支について		期末試験で評価する					10	
評価方法	(1) 中間試験	(2) 期末試験					その他	合計
指標と評価割合								
総合評価割合	45	55						100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎						
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】	○	○						
汎用的技能 【 】								
態度・志向性(人間力) 【 】								
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】								
学習上の留意点, 学習上の助言								

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス	マクロ経済学の視座について説明を聞き、その全体像がおぼろげながらわかる	次回以降の予習を行う
2	国民経済計算とGDP	消費者行動理論について、概要ならびに消費者行動を決定する要素が何か理解できる	次回以降の予習を行う
3		三面等価の原則、国民所得などの概念が理解できる	次回以降の予習を行う
4	財市場の均衡	消費関数、貯蓄関数などを理解し、経済循環の基本が理解できる	次回以降の予習を行う
5		均衡国民所得の決定について理解できる	次回以降の予習を行う
6		IS曲線の導出過程について理解できる	次回以降の予習を行う
7		貨幣市場	貨幣市場について理解でき、貨幣の機能について理解できる
8	中間試験		
9	IS-LM分析	貨幣市場の均衡について理解できLM曲線を導出できる	次回以降の予習を行う
10		IS-LM分析について理解でき、金融政策、財政政策の効果について分かる	次回以降の予習を行う
11	AD-AS分析	総需要曲線について理解できる 労働市場の均衡条件について理解できる	次回以降の予習を行う
12		総供給曲線について理解できる	次回以降の予習を行う
13		物価の水準、フィリップス曲線などについて理解でき インフレーション、デフレーションの諸概念が理解できる	次回以降の予習を行う
14	開放経済における国際収支	開放経済における国際収支に関する諸概念、知識について理解できる	次回以降の予習を行う
期末試験			
15	まとめ	期末試験の解説とともに、全体の学習事項のまとめを行い、それを理解できる	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			25 時間
自学自習			20 時間